

コモンズ－学びの共同体－



「コモンズ－学びの共同体－」創刊にあたって

奈良県立大学は、「人と社会の未来を創る」という建学精神のもと、地域志向の大学を目指して弛まぬ大学改革を推進してまいりました。

これまでにない特色ある教育方法の導入と教育の質の向上を目指し、「学習コモンズシステム」を導入し、徹底した対話型少人数教育、課題指向型教育、解決指向型教育に取り組みます。

コモンズには、「共有するもの」という意味があり、教員と学生によって構成される志向性を持った「学びの共同体」として、地域づくりに貢献できる優れた人材の養成を目指します。

この度、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択されたことを契機に、本学のCOC事業を踏まえた地域づくりを志向した取り組みを紹介するため、本誌を創刊することといたしました。本学の取り組みをご理解いただくとともに、地域の皆様との連携の一助になれば幸いです。



伊藤 忠通 学長

地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)の概要

「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」は、大学が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ることを目的として、平成25年度より実施された文部科学省の事業です。

この事業に対し、全国から319件の申請があり、本学の申請を含め52件が採択されました。

本学が提案した事業名は、「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」であり、以下のような取組を行います。

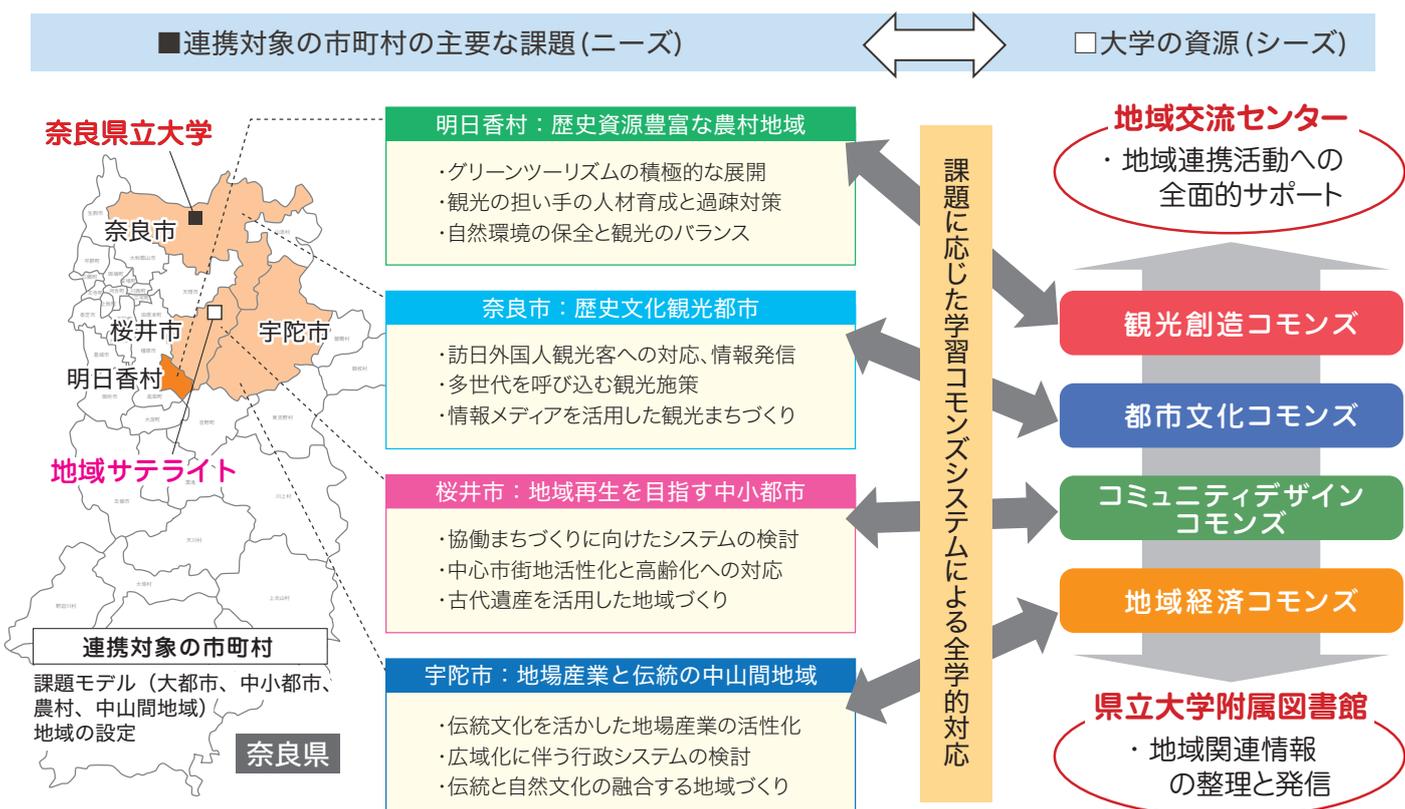
本学では、現在全学的な大学改革に取り組んでおり、平成26年度より新たな教育システムのもとで地域との連携により、全学体制で地域を志向した教育・研究・社会貢献を推進します。フィールドワークを重視した実践的教育、ゼミ教育を中心とする「学習コモンズ制」を導入します。学習コモンズは、教員グループと学生グループによって構成される志向性を持った学習共同体です。学習コモンズに「観光創造」、「都市文化」、「コミュニティデザイン」、「地域経済」の4つの領域を設け、課題指向型教育、解決指向型教育によって、地域再生に貢献できる地域人材を育成します。

観光創造コモンズは明日香村におけるグリーンツーリズムを中心に、都市文化コモンズは奈良市における都市文化の価値創造を中心に、コミュニティデザインコモンズは桜井市におけるコミュニティ再生を中心に、地域経済コモンズは宇陀市における地域経済の再生を中心に教育・研究・社会貢献という大学が果たすべき3つの機能の実現に取り組みます。

※COC：Center Of Community の略

地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生

連携自治体の課題と奈良県立大学の資源の活用



奈良県立大学協働サロン

地域で活動するさまざまな主体の出会いと交流、地域の諸課題（ニーズ）と県立大学の資源（シーズ）のマッチングを目的として地域交流センターに「協働サロン」を開設しています。

協働サロンでの相談、情報提供、情報交換等の交流を通じて、地縁・知縁によるコミュニティの形成やネットワークの形成が期待されます。

奈良県立大学にはさまざまな分野の専門家やそれらの専門分野について学んでいる学生がいます。地域の交流サロンとして、地域の交流拠点としてご活用ください。

本学教員の専門分野につきましては、本紙5ページに掲載しております。

出前講義（本学教員がご希望に応じて奈良県内各地を訪れて行う講義）については本学ホームページをご覧ください。

◆奈良県立大学教員紹介（専門分野と担当講義）

<http://www.narapu.ac.jp/prof.html>

◆出前講義のご案内

<http://www.narapu.ac.jp/region-demae-guide.html>

お問い合わせは、地域交流センター地域交流室まで

〒630-8258 奈良市船橋町10番地

奈良県立大学 4号館内

地域交流センター地域交流室

TEL：0742-93-5296（直通）

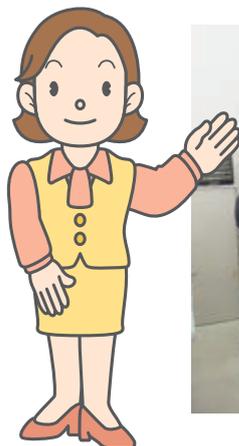
TEL：0742-22-4978（代表）

センター開所時間 平日 9：00～17：00

地域課題
(ニーズ)

地域ネットワーク
の形成

大学資源
(シーズ)



—協働サロンイメージ図—

大学紹介

概要

奈良県立大学は、奈良市内の中心に位置し、入学定員150名の地域創造学部1学部の小規模な大学です。前身の奈良県立短期大学の開学から今年で60周年を迎えました。

常に地域を志向した教育を目指しており、教員と学生の距離が近いなど小規模な大学の特徴を活かし、平成26年度より新たな教育システムである「学習コモンズ制」の導入を目指しています。

また、平成25年度に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択され、今後一層「地域づくりに貢献できる優れた人材の養成」を目指しています。

基本理念

わが国が21世紀において、さらなる発展を遂げるためには、「地域」に視点をおいた教育・研究が必要です。

奈良県立大学では、建学の精神である「人と社会の未来を創る」ことを実現するために、地域や観光に関する教育・研究を通じて、地域づくりに貢献できる優れた人材を養成するとともに、教育・研究活動の成果を地域に還元します。さらに開かれた大学として民産官学連携の場を提供することによって、社会・文化の発展に寄与することを目指します。

沿革

昭和28年4月 奈良県立短期大学開学 夜間部、修業年限2年、入学定員150名
 昭和48年4月 修学年限を3年に改める
 平成2年4月 奈良県立商科大学開学 夜間学部、修業年限4年、入学定員100名
 平成13年4月 校名を奈良県立大学に変更

平成19年4月 昼間学部、入学定員150名に変更
 平成25年8月 文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択
 平成26年4月 学習コモンズ制導入(予定)

客員教授陣

(平成25年11月1日現在)

スリン・ピッサワン タイ王国タマサート大学名誉教授 前アセアン事務総長

チョン・ジョンファン アジアトゥデイ副会長 元韓国国土海洋部長官

絹谷 幸二 東京藝術大学名誉教授

藪内 佐斗司 東京藝術大学大学院教授

岩村 敬 元国土交通事務次官

佐藤 禎一 元文部事務次官 国際医療福祉大学大学院教授

竹内 行夫 元最高裁判所裁判官

森本 晃司 元建設大臣

野口 隆 奈良産業大学特別教授

松下 敏郎 元国土交通省中部整備局副局長



参考

専任教員 29名
(教授13名、准教授14名、講師2名)

事務局 29名
在籍学生数(平成25年11月1日現在)

年次	学生数	うち男子	うち女子
1年	149	39	110
2年	167	46	121
3年	167	46	121
4年	168	62	106
合計	651	193	458



過去の入試結果

入試制度/年度		2011年度	2012年度	2013年度
一般前期	志願者	332	259	321
	受験者	297	237	293
	合格者	88	87	87
一般中期	志願者	921	830	805
	受験者	595	509	503
	合格者	163	148	137
推薦	志願者	119	102	106
	受験者	119	101	106
	合格者	30	30	32
社会人	志願者	2	3	2
	受験者	2	3	1
	合格者	0	2	0
編入学	志願者	26	17	22
	受験者	24	14	19
	合格者	5	5	6

教員名簿(平成25年度)

教員名及び担当科目一覧(ゼミ、地域現場実習、地域創造学概論を除く)

職名	氏名	担当科目
学長	伊藤 忠通	
学部長	西田 正憲	環境文化論、環境論、景観論、自然観光論
学生部長	遠藤 英樹	地域調査法概論、社会学、観光社会学、現代文化論
図書館長	中谷 哲弥	文化人類学、フィールドワーク論、観光文化論、南アジア地域文化論
教授	麻生 憲一	観光政策論、観光経済学、観光学総論I、経済学
教授	小松原 尚	人文地理学、経済地理学、観光地理学、世界地誌
教授	坂西 明子	労働経済論、都市経済論、地域経済論、ミクロ経済学
教授	新谷 多枝	英語I(A・B・C)、英語II(A・B・C)、英語V(A・B)、英語VI(A・B)
教授	新納 克廣	交通論、国際旅客輸送論、サービス経済学、交通産業論
教授	野高 宏之	歴史I、歴史II、観光史、奈良観光史
教授	堀野 正人	観光対象論、地域観光論、アーバンツーリズム論、ホスピタリティ論
教授	村田 武一郎	比較地域論、地域開発論、広域圏計画論、地域計画論
教授	安村 克己	現代観光論、観光学総論II、観光まちづくり論、社会理論の歩み
准教授	栗村 俊夫	商学総論I・II、消費者行動論、サービスマーケティング論
准教授	石川 敬之	中小企業論、地域と産業、経営戦略論、経営組織論
准教授	井原 縁	日本文化論、地域環境保全論、地域文化論、文化遺産論
准教授	亀山 恵理子	国際関係論II、国際NGO論、国際機関論、東南アジア地域文化論
准教授	城戸 英樹	行政学、地方自治論、現代日本の政治と行政、比較政治学
准教授	古山 周太郎	地域福祉論、地域デザイン論、都市計画論、コンピュータリテラシーB
准教授	斎藤 宗之	国際経済論、国際開発論、社会データ分析入門、マクロ経済学
准教授	千住 一	観光開発論、オセアニア地域文化論、観光交流文化論、日本近現代観光史
准教授	高津 融男	法学概論、憲法、環境法、行政法
准教授	玉城 毅	民俗学、平和学、地域社会論、比較文化社会論
准教授	津田 康英	経営学総論、国際マーケティング論、比較経営論、国際ビジネス論
准教授	戸田 清子	地域経済史、近代社会経済史、地域学総論、中近世地域経済史
准教授	藤森 茂	公会計論、簿記原理I・II、会計学
准教授	堀田 新五郎	政治思想史、国際関係論I
講師	石本 東生	国際ツーリズム論(旧:国際観光論)、国際観光ビジネス論
講師	岡本 健	メディア・コンテンツ論、メディア産業論

広がる学び

地域創造学部 4つの領域「コモンズ！」

(2014年度実施に向け構想中)

コモンズとは、学びのテーマごとに学生と教員が集う共同体。
「この学問領域をとことん追究したい」という志向に応えます。
地域社会の持続と発展を見つめ、
人と社会の未来を創るために
奈良県立大学のコモンズが
いよいよ始動します。

What's
Commons?



観光創造

Commons



観光ビジネス・政策

地域資源

アジア・グローバル観光交流

美しい風景や由緒ある寺社、ご当地グルメなど、さまざまな体験と「観光」の感動を創出するための学びの場が「観光創造」コモンズです。地域の自然、景観、歴史文化などの価値を尊重し、地域の観光力をいかに発信していくのか。ローカルにも、グローバルにもスポットを当て、新たな観光のポテンシャルを引き出す実践的能力を養います。将来は観光のスペシャリストとして、観光関連産業や行政機関で活躍するチャンスが広がっています。

都市社会史

メディア・表象

アート・アミューズメント

都市文化

Commons

「都市文化」を形づくる街並み、ファッション、ショッピング、芸術、娯楽、グルメ、交通…。にぎやかで楽しげなイメージが浮かんできませんか。私たちが魅了され、居場所を求めてきた都市文化はどのように形成され、いかに発展していけばいいのか。「都市文化」コモンズではその課題に歴史学と社会学の両面から向き合います。新たな時代の都市文化を創造する力は、行政、企業、地域づくりなど多様な進路に通じています。



Q:入学試験制度に変更はありますか。また、どのような学生の入学を求めていますか。

A:入学試験は従来どおり、コモンズに関係なく推薦、前期、中期の日程で全学統一で行います。また、本学の取り組みを理解し、地域づくりのリーダーを目指す学生を待ち望んでいます。

Q:コモンズの選択はどのようにして行いますか。

A:コモンズ別の教育は、2年次より行います。1年次で全コモンズの概論的な科目を選択できますので、1年次に将来の方向を検討してもらい、1年次の後学期に希望するコモンズを選択していただいたうえ面接を行って希望コモンズを決定します。

Q:ゼミについて教えてください。

A:1年次は、大学生活に必要な基礎的な事項を教育する「基礎ゼミ」を週1日1コマ(4単位)行います。2～3年次は、各コモンズで「コモンズゼミ」を週2日2コマ連続(計4コマ、1学年で16単位)行います。4年次は、「コモンズゼミ」で週1日2コマ連続(8単位)で卒論指導を行います。ゼミとして合計44単位を必修としており、卒業必要単位124単位の3分の1以上となります。

Q:コモンズゼミでのユニークな取り組みを教えてください。

A:コモンズゼミでは、複数の教員による指導を行うほか、課題解決型のプロジェクトを通じた教育の実施、地域現場での実習などを行います。また、コモンズの枠を超えた合同ゼミ、学年合同ゼミなどを行います。

コミュニティ デザイン Commons



コミュニティ政策
持続可能な山村
福祉コミュニティ
多文化共生

「人と人のコミュニケーションを演出する」「人や地域に潜在する活力を引き出す」。コミュニティデザインという言葉から、そんなリーダー像が思い浮かびます。複雑な諸問題を抱える地域社会は今、持続可能な地域創造の担い手を求めています。その社会的要請に応える「コミュニティデザイン」コモンズでは、積極的に奈良県内の都市部・農山村部へ飛び出し、考える力とつなげる力を養成。これからの社会に必要なリーダーを目指します。

地域経済
地域産業
流通・マーケティング

地域経済 Commons

地域は生活の場であり、生産、雇用、消費、流通といった経済活動の場でもあります。地域の自立が試みられる中、それを可能にするためには経済的な自立が必要です。「地域経済」コモンズではグローバル、ナショナル、ローカルなレベルの市場、地域経済を左右する産業構造、人口構造などから、地域の経済的自立と持続的発展の可能性について学び、豊かな発想と行動力で地域の未来のために活躍できる人材を育成します。



観光創造 Commons

観光ビジネス・政策

地域資源

アジア・グローバル
観光交流

地域のスゴイを考える



観光は国や地域の活力。
新しい価値を創造しよう。

准教授
井原 縁 IHARA Yukari

遺産・環境デザイン論、文化遺産論

地域の自然や歴史文化などの価値を尊重し、活かしなが
ら、地域の特色にあった観光をいかに創造していくのか
を学問的立場から探究するのが本 Commons の目的です。
本 Commons では、観光に関する専門的な知識を体系的に
習得し、ローカルな視点とグローバルな視点の両面から
思考する能力を身につけ、持続可能な新たな観光を創造
できる実践的能力を培います。また、地域に貢献できる
観光スペシャリストを養成し、観光産業や行政において
活躍できる人材を育成します。観光に興味を持っている
ことはもちろん、地域が抱えるさまざまな問題にも関心
を持ち、コミュニケーション能力に磨きをかけ、ひとつ
の目標に向かって他の人々と協力しあえる人。国内外の
フィールドに積極的に参加する意欲がある人。外国語に
興味を持ち、積極的に学ぶ姿勢がある人。将来、観光を
通じて社会の役に立ちたいと考えている人。このような
「人」たちの入学を期待します。



「観光創造」Commonsの学びのポイント

1

観光に関する専門的かつ体系的な知識
や分析力を習得します。

観光に関わるあらゆる領域を専門的な立場から体系的に
理解し、ローカルな視点のみならずグローバルな視点か
ら思考する能力や地域の課題に対する分析力を身につけ
ます。

2

柔軟な思考能力やコミュニケーション
力、実践力を身につけます。

観光はいま地域振興にとって不可欠なものとなってい
ます。地域の抱える問題に対して、あらゆる人々と協力し問
題解決に向けて新たな観光を創造できる実践的能力を培
います。

3

観光産業や行政、各種団体において活
躍できる人材を育成します。

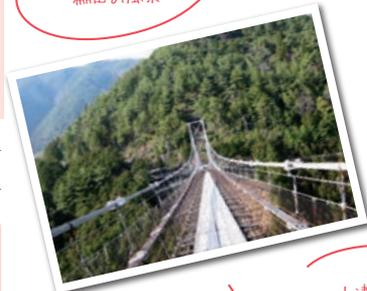
現在、わが国の観光立国の施策において、観光産業や行
政などで中心的な役割を担える人材が求められています。
実践的能力とリーダーシップを兼ね備えた観光のスペ
シャリストを養成します。

「観光創造」Commonsの主な講義

観光学概論	観光経済学	交通産業論	観光ビジネス論
本講義は、2年次以降の専門科目群に向けての導入的な学習として位置づけられています。観光に関わるさまざまな内容を観光創造 Commons 所属の教員がリレー形式で講義を行います。	さまざまな観光現象を経済学的な視点から解説します。観光者と観光業者の合理的行動、観光消費の経済波及効果、観光産業の市場構造などを取り上げ、経済的特徴を明らかにします。	交通産業の特色を把握した上で、陸上旅客交通産業(鉄道とバス)が直面する課題を理解します。また、産業や企業を分析し、企業を評価する力を身につけます。	旅行会社やホテルなどの観光産業の類似点と相違点を明らかにし、それらの業種間の関係に注目します。ビジネスの成否を決める立地条件や経済条件、事業者戦略などを考察します。
景観論	文化遺産論	国際ツーリズム論	観光人類学
近年、生活空間の街並みや里地里山などの身近な景観が目目され始めています。こうした景観に関する現代の動きを学び、景観評価や景観施策などについて理解を深めていきます。	多様な文化遺産の価値についての的確に判断できる力の習熟を目標とします。「文化遺産」の諸概念を正確に理解し、その背後にある思想を読み解くことに主眼を置きます。	国際ツーリズムを訪日旅行と海外旅行の視点から捉えます。また、実際に欧州の観光立国の事例や、日本政府観光局の観光政策などを取り上げ、国際観光の視野を広げます。	観光にはさまざまな文化的な現象が密接に絡んでいます。エスニック・タウン、宗教巡礼、戦跡観光、フィルム・ツーリズムなどのトピックを取り上げながら、それらの課題について議論します。



明日香村の
棚田の風景



十津川村の
谷瀬の吊り橋

教員一覧

リーダー	サブリーダー				
教授 中谷 哲弥	教授 麻生 憲一	教授 新納 克廣	教授 西田 正憲	准教授 井原 縁	講師 石本 東生
・異文化交流論 ・観光人類学	・観光経済学 ・観光政策論	・交通産業論 ・国際旅客輸送論	・景観論 ・環境と社会 ・自然資源論	・遺産・環境デザイン論 ・文化遺産論	・国際観光ビジネス論 ・国際ツーリズム論

都市文化 Commons

都市社会史

メディア・表象

アート・アミューズメント



都市の歴史、文化、楽しみ

都市文化の歴史と未来をダイナミックにとらえる。

教授
野高 宏之 NODAKA Hiroyuki

都市社会史、都市文化史、歴史

都市文化は、文化遺産、街並み、ファッション、ショッピング、芸術、娯楽、飲食など、多様な要素が相互に影響し合って成り立っています。そこに私達は魅了され、居場所を求めてきました。そのような都市文化がいかんして形づくられたのか、未来に向けてどのように発展させたらいのかを学問的に探究するのが、本 commons の目的です。歴史学と社会学を中心とする複眼的アプローチによって、都市文化の今ある姿をダイナミックにとらえ、都市社会史、メディア・表象、アート・アミューズメントの3領域を研究対象の柱として学んでいきます。また、博物館をはじめとする文化施設、アートイベントなどのフィールドワークを通して実地調査の技法を身につけます。都市文化発展の要因は何か、個性ある都市文化を花開かせるには、どのような仕掛けや工夫が必要となるのか。こうした「問い」を自ら発して、学問的な探究に熱中できる人を心から待ち望んでいます。



「都市文化」commonsの学びのポイント

1

今を問うことは歴史を紐解くこと。
都市文化の発展の道筋を理解します。

近世から現代まで、都市文化は多様な展開を遂げてきました。各時代を記述した文献を精読し、変化を引き起こした因果関係や背景を考察し、都市文化の歴史に迫ります。

2

メディアやアートから都市文化の特徴
や問題にアプローチします。

都市はメディアやアートによって表象され、そこに示されたイメージから強い影響を受けています。社会的な視点から両者の関係を考察し、課題を抽出する力を磨きます。

3

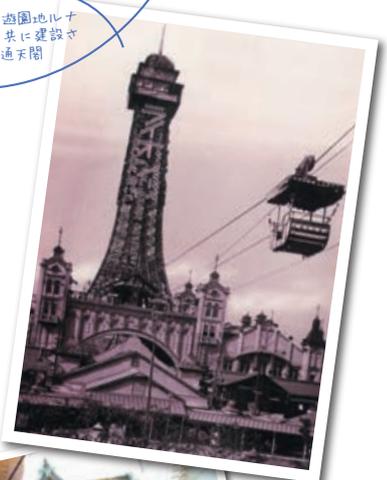
都市文化の創造に取り組むための豊かな感性と構想力を育みます。

都市文化の魅力を高めるための諸方策を立案する構想力や、柔軟な発想と鋭い感性をもとに異なる文化要素を結びつけて新たな価値を生み出す創造力を培います。

「都市文化」commonsの主な講義

都市社会学 「いま」という時代を考えていくうえで、都市研究が重要です。ニューヨークや東京など多くの事例を通し、現代における都市のあり方を刺激的に考えます。	都市社会史 職業も出身地も異なる人々が集まる空間を都市または都市的な場とします。こうした空間が全国に拡大した江戸時代における人と人との関係に迫ります。	メディア文化論 テレビドラマ、ポピュラーミュージック、マンガ、ファッションをはじめ、現代におけるメディア文化について、特に社会学の視点を中心に考えてみます。	都市文化史 江戸時代の日本では、三都を中心に全国の城下町に固有の文化が生まれ、とりわけ日常生活と結びついた文化が盛んになりました。こうした都市の生活文化を中心に扱います。
都市交流史 人やモノの交流が都市を生み出し、都市の発展がさらなる交流を生み出します。こうした都市のありように注目し、歴史学のなかでも特に近代史の視点からアプローチします。	文化アトラクション論 博物館、美術館、テーマパーク、複合商業施設、タワー、博覧会など、都市のさまざまな魅力が私たちに惹きつけています。都市文化が生み出す「楽しい」を学問的に探究します。	メディア・コンテンツ論 アニメや映画、漫画、ゲーム、小説、音楽といったメディア・コンテンツの制作や流通等の産業的側面、内容分析や消費者行動などを総合的に考察します。	都市モダニズム論 近代において芸術、建築、娯楽、消費などの多様な領域で都市の文化が開花しました。現代の生活スタイルの基礎となった都市モダニズムを読み解き、歴史的に考察していきます。

新世界中に遊園地レジャーパークと共に建設された初代通天閣



「茶の町」で知られる
大阪道頓堀の少彦名
神社の神農祭

教員一覧

リーダー

サブリーダー

教授
堀野 正人

• 都市演出空間論
• 文化アトラクション論

准教授
戸田 清子

• 近代社会経済史
• 都市モダニズム論

教授
遠藤 英樹

• 社会学
• 都市社会学
• メディア文化論

教授
野高 宏之

• 都市社会史
• 都市文化史
• 歴史

准教授
千住 一

• 都市交流史
• 都市表象論

講師
岡本 健

• メディア産業論
• メディア・コンテンツ論

コミュニティデザイン Commons

コミュニティ政策
持続可能な山村
福祉コミュニティ
多文化共生



地域や人間のこれからの
つながりをデザインする。

准教授
玉城 毅 TAMAKI Takeshi

コミュニティ論、平和とコミュニティ

コミュニティデザインは現場から学ぶ、実践的な学問領域です。「コミュニティ」という暮らしの基本単位を念頭に、空間・環境、社会的関係、歴史文化、社会システムを「デザイン」していきます。

「デザイン」は一般的に、色や形態や素材を組み合わせ設計、描画し、建築や服や作品などをつくる行為と捉えられます。われわれはこの概念を押し広げ、「新しい社会のかたち」を創ることを「デザイン」と考えます。コミュニティにきちんと向き合い、一緒に行動することで、さまざまな問題を解決し、新しいコミュニティのかたちをつくる。この一連の行為がわれわれの考える「デザイン」なのです。地域の歴史文化の理解力、多様な住民の意識の把握力、住民と協働する行動力、課題解決に向けた構想力、こういった「新しいかたち」を創る力を、実践の場で鍛えてみませんか。コミュニティは若い力を求めています。一緒に、「新しい社会のかたち」づくりにむけて取り組みましょう。



「コミュニティデザイン」COMONSの学びのポイント

1

地域コミュニティの福祉の課題を明らかにして有効な対策を考え提案します。

地域コミュニティにおいて、とくに社会的弱者が抱える課題を明らかにし、地域の人々にとってより良い生活とは何かを考察し、実践的な活動を行います。

2

国内や海外の多文化共生コミュニティのより良い在り方を考え実践します。

国内はもちろん海外においても、多様な文化的背景をもつ人々が共生できる地域コミュニティの在り方について、現地での調査と実践活動をもとにして研究を行います。

3

持続可能な地域コミュニティの在り方と公共部門の役割や仕組みを考えます。

奈良県内の都市と山村において、地域の住民や行政などさまざまな主体による活動に参加しながら、持続可能な新しいコミュニティの在り方や公共的な仕組みについて考察します。

「コミュニティデザイン」COMONSの主な講義

コミュニティ論 関係の存在である人間の「つながり」と「へだたり」をめぐる歴史と現実を学び、コミュニティ形成と再形成の課題と可能性を考える。	政策デザイン論 過去の事実を分析するだけでなく、新たな価値や生活様式を生み出す仕方で、公共的な課題の創造的な解決の方法を探索します。	地域デザイン論 コミュニティの社会的関係と空間環境のつながりを再構築する手法や理論を、空間環境に関わるテーマごとに日本各地の事例を用いて学びます。	多文化コミュニティ論 ある国や地域における多文化社会の現状と課題を学ぶとともに、社会的・文化的な多様性を背景とする人びとが、ともに生きていくことが可能な社会のあり方を考えます。
生活空間再生論 個人の「生活の場」である生活空間の再生から、地域社会、国家、そしてグローバル社会の再編成までを視野にいたれた「持続可能な社会」の構想と実践について考察します。	コミュニティ思想史 前近代の思想は共同体が個人に役割を与えると考え、逆に近代の思想は個人が共同体を形成すると考えました。両者の功罪を考察します。	地方自治論 地方政府は私たちの生活に最も近い行政組織です。それを取り巻く地方自治制度の理解を深め、地方政府の役割を考察します。	福祉コミュニティ論 高齢化社会や格差社会の到来により、地域の福祉に関するさまざまな取り組みが必要とされています。その背景と具体的な地域福祉政策を考察します。

インドネシア西ジャワ州ワテスジャヤ村



奈良市ならまち格子の家

教員一覧

リーダー

サブリーダー

准教授

玉城 毅

- ・コミュニティ論
- ・平和とコミュニティ

准教授

堀田 新五郎

- ・現代政治理論
- ・コミュニティの思想史
- ・政治学

教授

安村 克巳

- ・コミュニティ社会学
- ・生活空間再生論

准教授

亀山 恵理子

- ・グローバル共生論
- ・地域研究の方法

准教授

城戸 英樹

- ・行政学
- ・地方自治論

准教授

古山 周太郎

- ・地域デザイン論
- ・福祉コミュニティ論

准教授

高津 融男

- ・公共政策論
- ・政策デザイン論
- ・法学

地域経済 Commons

地域経済

地域産業

流通・マーケティング



地域の振興と活性化の経済的課題を把握する

教授
坂西 明子 SAKANISHI Akiko

地域経済学、ミクロ経済学、労働経済学

地域は消費・生活の場であると同時に、生産・経済活動の場でもあります。地域経済コモンズでは、地域の振興と活性化について「経済」と「経営」の2分野から探究します。現代の地域経済は世界各国の動向に影響を受けており、グローバルな視点から人口構造の推移、消費市場の変移、産業構造の変遷、経済情勢の変化をとらえる必要があります。さらに、地域経済の持続的発展を考えるには、地域経済の特色と地域振興の諸方策、地方財政の仕組みなどについて、マクロ・ミクロの複合的な視角を意識することが重要です。これに加えて、例えば、地域における産業の育成や産地の発展にはどのような支援がこれから必要となってくるのか、特産品の加工や製造、販売にはどのような諸問題が生じているのか、などの具体的な事例についても、団体や組織の人々と積極的に交流しながら、提言を考えようとする人材を地域経済コモンズでは求めています。



「地域経済」コモンズの学びのポイント

1

グローバルな視点から地域経済を学ぶ。

経済活動における国際的な相互依存関係は近年ますます高まっています。多国籍企業の動向や各国政府による政策を把握したうえで、地域経済に関わる諸問題を考察していきます。

2

生活者の視点から地域経済を学ぶ。

地域は人間生活の場です。人々が幸せな生活を維持できるように、生活者の視点から生産、雇用、消費、流通といった地域における経済活動について理解する力を身につけます。

3

地域経済の仕組みを学ぶ。

人口構造、産業構造、市場構造など、さまざまな視点から地域の構造について学び、どのような仕組みの中で地域における経済活動が営まれているかを理解する力を身につけます。

「地域経済」コモンズの主な講義

地域経済学 グローバリゼーションの一方で、個性的な地域の創造や地域の発展が求められています。これらを両立して統合させる考え方を身につけるために、地域に働く経済の論理を学んでいきます。	地方財政論 地方分権の時代になり、地域の自立と活性化において地方財政が果たす役割はますます重要になっています。地方財政の仕組みを理解し、課題について考える力を身につけます。	経済地理学 産業の立地という側面から「なぜそこにそれがいいのか」ということを考える科目です。例えば、熱帯性の植物のイネがなぜ北海道で栽培されているのか。こうした疑問を一緒に考えましょう。	国際経済論 現在、国際的な相互依存関係が高まる中で、1国の政策は自国だけではなく他国にも多大な影響を与えます。国際経済理論の基礎を習得し、競争と協調について考えていきます。
地域マーケティング論 観光客や企業の誘致、地元産品の移出・輸出といった地域振興のビジョンを作成し、これを実現するための地域インフラ整備、適切な地域イメージの形成といった問題を扱います。	公会計論 国や地方自治体の税金の使い道(財務情報)を納税者として知る必要があります。客観的評価が可能な唯一のツールである会計を使うことで、財務情報の仕組みが理解可能となります。	経営戦略論 企業だけではなく、事業を行う組織全般を対象として「戦略」という概念を考えます。戦略策定の視点や実践のあり方、また評価の方法などについても議論していきます。	国際マーケティング論 海外市場の開拓は製造企業が成長・存続するための重要課題となっているので、先進事例の検討を通じて販売促進や流通経路の開拓、品揃えをめぐる諸問題について考察します。

伝統的な地場産業



グローバルな経済の動き



教員一覧

リーダー

サブリーダー

教授
小松原 尚

- ・経済地理学
- ・地域構造論

教授
坂西 明子

- ・地域経済学
- ・ミクロ経済学
- ・労働経済学

教授
伊藤 忠通

- ・公共経済学
- ・財政学
- ・地方財政論

准教授
栗村 俊夫

- ・地域マーケティング論
- ・流通と地域

准教授
石川 敬之

- ・経営戦略論
- ・経営組織論

准教授
斎藤 宗之

- ・国際経済論
- ・産業組織論
- ・マクロ経済学

准教授
津田 康英

- ・経営学
- ・国際ビジネス論
- ・国際マーケティング論

准教授
藤森 茂

- ・会計学
- ・公会計論

入学試験制度について

2014年度の学生募集は次の通りです。なお、各コモンズの選択は、出願時ではなく、2年次に進級する際に行います。

募集定員	学部	一般入学	推薦入学	社会人入学	入学定員計
	地域創造学部	115名	30名	5名	150名

1. 一般入学試験 (定員合計115名)

■国公立前期日程(定員50名)

試験会場: 奈良県立大学

入試センター試験(外国語<英語リスニングは含めない>・国語・その他1科目)と本学が実施する学力試験(小論文・英語読解力を含む)の成績を総合して選考します。配点は、大学入試センター試験200点、本学個別試験100点とします。

■公立大学中期日程(定員65名)

試験会場: 奈良県立大学、名古屋市内

大学入試センター試験(外国語<英語リスニングは含めない>・国語・その他1科目)と本学が実施する学力試験(小論文・英語読解力を含む)の成績を総合して選考します。配点は、大学入試センター試験200点、本学個別試験300点とします。

2. 推薦入学試験 (定員30名)

試験会場: 奈良県立大学

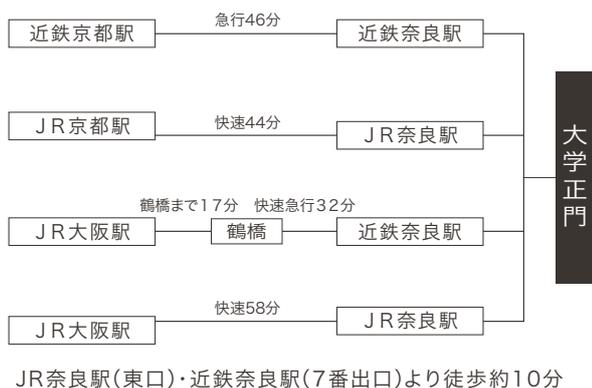
学力試験(小論文・英語読解力を含む)と面接試験の成績に志願理由書、調査書を総合して選考します。大学入試センター試験は課しません。

3. 社会人入学試験 (定員5名)

試験会場: 奈良県立大学

25歳以上で社会人経験(家事従事者を含む)が5年以上の人が対象です。学力試験(小論文)および面接の成績、志願理由書の内容を総合して選考します。大学入試センター試験は課しません。

アクセス



編集後記

文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に本学が採択されたことを契機に、地域を志向する奈良県立大学の教育・研究・地域貢献の取り組みを広く紹介するため、情報誌「コモンズ」を創刊することといたしました。

創刊号では「地学連携」を目指す大学COC事業における本学の取り組み方針、地域と大学を繋ぐ協働サロン、本学の概要、及び「地域づくりに貢献できる優れた人材養成」を目指す「学習コモンズ制」を中心に紹介しています。

本誌は、地域交流室、国際交流室、キャリアサポート室の3室で構成された地域交流センターのうち、地域交流室で編集していますが、今後、地域での教育現場、研究成果などの紹介を行って参ります。また、地域のみなさんや学生のみなさんも協働サロンや地域交流センターをどんどん利用していただけるよう、職員一同環境を整えていきたいと考えています。



奈良県立大学

Nara Prefectural University

地域創造学部

「観光創造」コモンズ 「都市文化」コモンズ 「コミュニティデザイン」コモンズ 「地域経済」コモンズ

奈良県立大学

検索

<http://www.narapu.ac.jp/>

〒630-8258 奈良市船橋町10番地

TEL 0742-22-4978 FAX 0742-22-4991

お問い合わせは 月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで

お問い合わせアドレス students@narapu.ac.jp